

2024 年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和 6 年 6 月 15 日（土）13:30～14:30

場所：大阪医療福祉専門学校（対面と Zoom 併用）

書記：西尾事務課長

外部委員：関本 充史（業界代表）・西 基之（業界代表）・段上 靖治（卒業生代表）・
道園 祐佳里（保護者代表）・岩寄 恵美子（近隣関係者代表）

*欠席：湖崎 淳（業界代表）・森脇 正浩（高校代表）…書面にて意見提出

内部委員：橋本 勝信（常務理事・学校長）・中道 真樹（事務局次長）

平木 たい子（教務部長）・永吉 啓吾（教務副部長）

高柿 有里（教務副部長補佐）・林 亜遊（教務課長）・西尾 嘉津政（事務課長）

●開会の辞

●学校長挨拶：橋本学校長

本日はお忙しい中、2024 年度の学校関係者評価委員会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。コロナウイルス感染症縮小のおり、大阪医療福祉専門学校も平常時の学校運営で始まっております。今回は 2024 年度学校関係者評価委員会を開催する運びとなりました。ハイブリッドで数多くの方々の参加をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。職業実践専門課程は 2014 年にスタートしました。文部科学省が新たに創設した学校制度になりますが大阪医療福祉専門学校も職業実践専門課程が認可され、ほとんどの学科が今年で 11 年目を迎えております。この職業実践専門課程というのは、今、専門学校でどれぐらいの認可されているのか、少しお話をしておきたいと思います。全国で専門学校は現在 2,693 校あります。認定校は 1,110 校になります。41.2%と過半数に達してない現状があります。設置学科の数は 7,178 学科あります。認定学科数が 3,199 学科と 44.8%となります。これも 11 年経つのですが、過半数がまだ認定がないというのが、専門学校の実情でございます。この職業実践専門課程は、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的とし、専門分野における実務に関する知識・技能および技術について、組織的な教育を行うことを文部科学大臣が認定して奨励することになっております。専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることが目的になっております。このような職業実践専門課程が、11 年前からこの大阪医療福祉専門学校も認可をもらって学校運営をしまいいりました。学校法人大阪滋慶学園大阪医療福祉専門学校は今年で創立 23 年目を迎え、学園学校の教育使命、ミッションが職業人教育を通じて社会に貢献する。教育理念ビジョンは、実学教育、人間教育、国際教育を掲げて職業教育実践活動をしてまいりました。その成果を少しご紹介したいと思います。大阪医療福祉専門学校の中では、理学療法士学科は昼夜の学科でございます。今まで卒業生は 1,454 人になります。卒業する時の理学療法士の免許取得者数が 1,423 人、取得率が 97.9%になりました。作業療法士学科の卒業生数は 1,299 人。これも

卒業する時の免許取得者数が 1,266 人。これも取得率 97.5%になります。視能訓練士学科卒業生数は 1,306 人です。卒業時の免許取得者数が 1,303 人です。取得率は 99.8%と素晴らしい成績です。言語聴覚士学科は卒業生数が 587 人、卒業時の免許取得者数が 565 人。取得率が 96.3%になります。医療総合学科卒業生は 69 人ですけれども、これは最近認可された学科ですけれども、医師、事務作業補助者の技能認定試験取得者数が 65 人で、取得率が 94.2%になります。この職業実践専門課程が 11 年前から認定されることになって、この大阪医療福祉専門学校はそれを忠実に履行し、PDCA サイクルを回しながら一生懸命努力してまいりました。その実践が先ほど申しました数字になって表れてきたと思っております。卒業生に本当に感謝する次第であります。関西圏には多くの仲間が病院や施設に勤務されておられます。各学科の目標資格に取得に向けて、学校は支援と就職内定 100%を達成してまいりますので、委員会の先生方のご支援とご協力をお願いいたします。本日の学校関係者評価委員会は、2023 年度の自己点検自己評価報告の説明があり、2024 年度の重点目標計画の発表があります。委員の先生方のご意見をいただきながら、新しく取り組めたら嬉しく思います。教職員一生懸命共々頑張りますので、ご支援をお願いしまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

●2023（令和 5）年度 重点項目結果および自己点検自己評価について：平木教務部長）

本日お忙しい中、本当にありがとうございます。教務部長の平木と申します。それでは振り返りの前に、本学の建学の理念について確認をしていきたいと思います。本学園は建学の理念であります実学教育、人間教育、国際教育の実践と、学生、保護者の皆様、そして業界からの信頼、高等学校地域からの信頼という四つの信頼をいただける教育機関として、職業人教育を通じて社会に貢献することをミッションとしております。本校のディプロマポリシーとしまして、先ほどの建学理念に基づいて学校の方としましては、5つの要件を兼ね備えた学生に卒業を与えるということをしております。まず 1 番目には、豊かな人間性を身につけて、何事にも主体的に取り組むことができる能力を有していること。2 番目にリーダーシップやフォロワーシップを発揮できるようになっていること。3 番目に医療福祉のニーズに柔軟に対応でき、社会地域に貢献できる能力を有していること。4 番目に専門職として知識・技術・態度を身につけていること。5 番目にチーム医療に必要なコミュニケーション能力を有し、他の職種と共同できる能力を有していること。こういった能力を持った状態で卒業させたいと考え教育してまいりました。今から昨年度の振り返りをしていきます。

【2023 年度 重点目標】については、お手元の資料をご確認ください。

- ① 入学⇒卒業率の向上
- ② 卒業学年の国家試験受験率 100%
- ③ ICT を活用した教育への転換
- ④ 就職指導プログラムの再構築
- ⑤ 目標・目的が明確な入学生で定員充足

- ⑥ 学費支払い困難で就学継続が困難な学生 0 名
- ⑦ 働きがいのある職場環境の構築
- ⑧ 防災・防犯意識の向上

これら昨年の重点目標を中心に、昨年の実績を振り返っていききたいと思います。本校が目標としております5つの数字に対しての成績ですが、学生募集では定員の92%達成、学費納入では全員が学費を入れていただいております、第一専門職としての就職も100%でございます。中途退学率は、学校としては例年4%以下を目指しており、若干4%を超えましたが、一昨年度よりも改善はしております。あと国家試験の合格率は全学科100%目指してはいたしましたが、全体96.3%という結果になっております。それではもう少し深掘りをしていきたいと思っております。

まず、国家試験過去5年間の実績でございます。理学療法士学科昼夜間、それから視能訓練士学科1年制・3年制課程は2年連続100%を達成しております。作業療法士学科は今年88.4%ということで昨年度より少し低いですが、全国平均合格率84%という非常に難しい試験だったようですので、その分から考えますと非常に健闘したのではないかと考えております。そして言語聴覚士学科が96.2%と、こちらでもここ数年1名だけが不合格になるという、ちょっと悔しい思いを続けておりますが、全体としまして非常に高い合格率であったと考えております。続きまして医療総合学科ですが、こちらは国家試験の学科ではございませんが、医療事務に関する資格をたくさん取っております。学科ができて今年で3年目になりますが、昨年度学生は、医師事務作業補助96%で、他の資格試験も一昨年の2022年に比べますと、非常に大健闘していると考えております。また、あまり数字に出ないところですが、卒業学年の国家試験受験率を見ていただきたいと思います。最終的には、100%ではございませんが、数字としては非常に良い結果と考えております。そして入学からストレートで卒業していった人数（留年、休学除く）、卒業率は学校目標90%以上としていますが、90%以上は3学科、あとは80%台でございます。これは、同業界の学校の中では、非常に高い卒業率であると考えています。そして、ストレートで卒業した学生の国家試験の合格率ですが、入学してから順調に卒業までいけると90%以上の方が合格をされますので、私たちの教育力の発揮しどころと考えます。反省も込めて、また頑張ってまいります。

続きまして、学校全体の行事から教育活動を振り返っていきます。4月は入学式からオリエンテーション、健康診断、奨学金の説明会、学生さんの身体状況を伺うようなサポートアンケートを行うようなことから始まり、6月頃には中間アンケートをとって、学校授業の様子を聞きます。7月に試験を迎えるので夏休みが8月にあり、9月ぐらいからもう後期が始まります。あまり休みは多くはございません。10月ぐらいには中間アンケート、息抜きのスポーツフェスティバルを実施しております。年末の方に向かってまいります途中、インフルエンザの予防接種を実施し、特に卒業学年には気を遣っています。12月には卒業研究発表会、そして年が明けると1月は卒業試験が始まります。卒業判定会議、そして2月にはま

た進級判定会議などが続くというような状況です。保護者様に対しての行事に関しては、だいたい4月、10月、2・3月に向けて成績や必要資料を送付し、保護者会も実施しております。このように年間行事を立てて実施しております。

続きまして教育活動ですが、昨年度は理学療法士学科、作業療法士学科昼間部が4年制課程になりまして、4年間を終えますと高度専門士という称号をいただけることになります。その1期生が入学してまいりました。まさに新しいことへの取り組みですが、どちらの学科も4つのコース活動を実施してきました。理学療法士学科の方は、パーソナルトレーニングや、データサイエンス、地域活動があります。作業療法士学科は、子どもの発達から、皆さんが生活しやすいような暮らしを考えることも勉強の範囲になってきています。こちらも順調に進んでいるかと思えます。そしてこどもリハビリテーション支援専攻科という、理学・作業・視能訓練士学科の昼間部3制を卒業した一部の学生ですが、18名がそのまま専攻科の方に入學しまして、1年間を昨年終え初めての卒業生を出しました。自分たちの専門職に加え、発達支援の勉強をしてまいりました。18名の学生が星槎大学を併修しておりましたので、こちらは専門士の上に学士をとって卒業し、業界に巣立ってまいりました。続きまして夜間部ですが、理学療法士学科のメディカルトレーナーコース、そして作業療法士学科の防災コーディネーターコースです。学生は昼間に働き、夜に勉強という形ですが、少し早めに学校に来て活動をしています。メディカルトレーナーコースでは、セレッソ大阪と産学連携しヨドコウ桜スタジアムでの演習や、またプロや社会人のアスリートが学校にケアを受けに来られることもございます。中には、プロのミュージシャンもいらっしゃいます。あとは、高等学校の部活動に学生が行ってメディカルサポートをしていますので業界連携という形で活動ができていると思います。防災コーディネーターコースでは、高校で合同授業をしたり、地域防災イベントに出かけたりしております。あと、言語聴覚士学科ですが、こちらは学校に学びの場を設けております。言葉の相談室ということで、言葉の発達が遅い子どもや、障害を抱えた子どもと保護者が来られて、教員と学生と一緒に実習を行っております。また、失語症の当事者様をお招きして、ご家族からの話も含めて話を聞いて勉強しています。そして視能訓練士学科の3年制はSDGs活動に関わっています。エコプロジェクトへの参画になりますが、コンタクトレンズのケースを学校で回収し、アイシティというコンタクトレンズの会社に届ける活動をしています。たくさんの方が玄関のボックスに入れてくださって、活動に協力をしてくださっています。続きまして医療総合学科です。いろんな施設へ壁紙をつくったり、季節を感じるようなものをお送りしたり、ボランティア活動もしています。能登半島地震がこの正月ありましたが、学生の方から何かできることはないかと募金活動の申し出があり、募金箱を玄関に置かせていただいています。そして、職種連携として本校の他学科、近隣の看護の学校とも協力をして、多職種連携教育へも取り組んでまいりました。勉強だけではなく、新入生研修を5月に学科を超えて実施したり、10月にはスポーツフェスティバル、部活動ではサッカー部や茶道部、軽音部など、学生が非常に楽しみながら活動をしています。

次は目標の方に上げていた ICT についてです。本学園には国家試験対策センターがあり、国家試験の分析、いろんな学習ツールをスマートフォンでどこでもできるような教材もあります。学校では学生ひとり 1 台パソコンを持っていたり、Microsoft の Teams を導入しております。各学科や各クラスでチームを設け、クラスで写真を撮って皆で共有したり、国家試験の対策や授業の変更など、教員と学生が相互にやりとりできるようなツールになります。あとは、授業の中で国家試験問題を提示し、学生がどの選択肢を選んだかをリアルタイムで教員が確認し、そこで教えるというようなことにも使えます。ただ、教員のレベルやスキルの差がありますので、この辺はもっと研修が必要と考えています。教職員は、サイボウズガルーンの導入が一昨年から本格的に始まっています。教員のスケジュールの調整や情報共有も全て行えます。電話があったというメモも残せます。皆の予定も非常によくわかりますし、何か委員会でミーティングをしたいという時も、空き時間をすぐに検索するようなこともできます。あとは、教務システムというのが入っており、学生の成績や出席率、面談内容や実習内容を情報共有できます。これは、学校のパソコンからしかアクセスできませんので、情報漏洩といった心配がない形で実施できています。

次は、学生募集と就職支援・就学支援について話をいたします。本学の定員数はだいたい 1 クラス 30 から 40 名の間で学生募集をしておりますが、昨年度は、実績としては 306 名ということで達成率 92%になっております。オープンキャンパスやダイレクトメール、SNS の発信として Instagram や TikTok というようなところにも広げています。適性 A0 入試を中心とし、推薦や一般入試もごさいます。入試に合格してから全学科と学科ごとでプレガクという入学前教育もごさいます。目的意識をしっかり持った学生を入学させるというところでは、ある程度の目標は達成できたのではないかと考えています。

次にキャリア教育という視点では、職業人として巣立っていただきますので、在学中は専門科目、基礎科目だけではなくて、人間力の習得といったところにも非常に力を入れております。合同授業やキャリア教育、チーム医療論などを通じてコミュニケーション力やマネジメント力を鍛えています。そして、卒業するときにはしっかりとプロのスペシャリストに育っていただけるようにと、フローでの教育を実施しています。そして就職関連ですが、コロナも明けきってはいませんが、昨年から大阪国際会議場で大阪滋慶学園の就職フェアを実施し、276 事業所の方にお越しいただきました。参加事業所へ就職した学生もたくさんおり、かなりの割合で就職につながっています。その他、学内で就職説明会することもあり、メイク講座の実施や卒業前には新入職者導入教育プログラムという生涯働いていく上で必要なことやメンタルのケアの仕方、お金の教育についても金融関係から来ていただき、授業を実施いたしました。そして、就職の実績では、第一専門職として 100%就職しております。1 人当たりの有効求人倍率は 13.1 ということで、非常に好調でございましたが、求人の来る時期がもう 6 月 7 月と夏に入る前にピークを迎えてきています。ここ数年だんだん早くなっています。一般の企業でも大学生であれば 3 年生から活動し、4 年生の 6 月には内定をいただくというような状況もあり、非常に早期化していますので、キャリア教育の方も 1 年

次から 2 年次からというように少し早めて実施をするようにしています。そして、就学支援、学費相談になりますが、ファイナンシャルアドバイザーがしっかりと学生に寄り添ってくれています。ある時は学生ではなく、保護者の相談相手になって相談を受けております。入学前のオープンキャンパスでも受けておりますし、在学中でも受け付けています。そして本校は、高等教育の就学支援制度の対象校でもあります。社会人であれば視能訓練士学科や言語聴覚士学科は、専門実践教育訓練給付金制度もございます。また、業界関連のアルバイトについても情報を学生にお伝えするということもしています。時には病院から奨学金をもらって、学校に来るといった相談も数件ございます。おかげさまで、学費面で大変な方もいらっしゃいますが、全員が学費納入していただいて終わっております。

最後になりますが、学校安全と職場環境についてです。避難訓練は年に 1 回以上するということが定められていますが、実際に非常階段使って近隣の避難場所まで避難します。日生ビルの隣の広場に全員で移動し、どういう状態だったかを評価するということを実施いたしました。また、防犯についての訓練として淀川警察から職員に来ていただいて、まず教員の方が講習会を受けました。内容としてはサスマタの使用法や薬物について勉強し、学生の方に伝えました。また、来年は学生への直接的な指導も考えています。職場環境も年間を通じて計画を立てております。教員の働き方に対してもそうですし、時間外労働や感染症について活動し、産業医にもご意見をいただいて対策をしております。お陰様でコロナが蔓延することはありませんでした。

以上が昨年度の振り返りになります。それでは私からの報告はこれで終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

●2024 年度重点項目目標説明：中道事務局次長

大阪医療福祉専門学校の重点目標の説明の前にまず、大きな将来像についてお話をさせていただきます。その将来像を念頭におきながら、重点目標を説明いたします。

本校の将来像は、以下の 4 項目として教職員とも共有しております。

- ① 非定型の実務能力の高い人材の育成により、AI を活用して仕事を改善できる人材を輩出する。
- ② 医療従事者の視点で地球課題と向き合える、志の高い人材を育成する。
- ③ 業界・行政と連携したリカレント教育やリスキリングにより、多職種×医療との融合の提案をする。
- ④ 地域における健康推進施設として、多様な人が集まる拠点校となる。

この将来像の実現に向けて、5 カ年計画として「総合型リハビリテーション学校としての基盤を構築する」ことを大目標としております。そのためには実際に何をしなければならぬのかということを考えると、次の 3 つであると考えています。

- 各学科の教育体制を整え、学科が強くなること

- 学科の成功事例を横展開し、より良い教育環境を構築
- 学科を超えた取組みを学校全体として実行していく

それを具現化するための短期的な目標を8つ掲げております。

1. 入学→卒業率の向上

中途退学者に関しては1年次の退学者を減少させることに注力する。特に4月～6月で生活習慣を確立し、7月以降学習習慣の定着を目指す。また、入学してストレートに卒業することを学校・学科の評価基軸にする。

2. 卒業学年の国家試験受験率 100%

卒業＝国家試験合格になりうる教育体制を構築する。卒業学年での指導から進級学年時での学力チェック体制を強化する。

3. ICTを活用した学習への転換

ICTを活用し、いつでもどこでも学習できる環境を構築する。動画での予習や復習を行い、反転授業等が出来る環境やTeamsを活用した自学自習できる環境を作る。

4. 就職指導プログラムの再構築

年々早くなっている求人に対応する為、就職学年前からのキャリア教育を実施する。大阪滋慶学園で実施している就職フェアを中心とした就職活動プログラムを構築する。

5. 目標・目的が明確な入学生で定員充足

就業学年内の学びを明確にし、ぜひ大阪医療福祉で学びたいという入学生で定員を充足する。オープンキャンパス・入試・プレスクール・初年次教育と一貫した指導を継続する事で目標・目的を明確化する。

6. 学費支払い困難で就学継続が困難な学生 0名

就学支援制度や奨学金（病院・日本学生支援機構）を活用するだけでなく、病院等でのアルバイト先を斡旋し就学困難な学生の支援を行う。

7. 働き甲斐のある環境の構築

教職員一人一人が学生の為に働き甲斐のある環境を構築する。また、ICTを活用する事で業務効率をあげ、ライフワークバランスの向上を目指す。

8. 防災・防犯の意識向上

学校が安全・安心な環境になるように、防災・防犯訓練を行う。また、日頃からの教職員の意識向上に努める。

今年度も、この8つの目標について良い成果が出るよう、委員の皆様にご協力いただきながら取り組んでまいりたいと思っております。

●質疑応答

関本委員：質問①

目標の入学者数の定員を満たすということが大きな課題にはなってくるかと思う。その

高校生や進路指導の先生方へのアプローチ等とされているが、何か具体的な活動を教えていただきたい。

中道事務局次長：質問①に対する回答

人口が減っているという中で定員を満たすのは難しくなっている。その危機的状況に対して、まず一つは本校の取り組みを広く世間に認知いただくことが重要と考える。そのためにはホームページをどう充実させていくかということが必要な要素と考えている。また、オープンキャンパスだけでなく、高校 1、2 年生に向けた職業体験の開催や、就職フェアを見ていただく一環として高校教員セミナーを実施することで、大阪滋慶学園の取り組みを知っていただく。

岩寄委員：質問②

重点目標について、卒業学年の国家試験受験率 100% を目標に対し、昨年度は 96.3% という結果であり理由を教えていただきたい。

中道事務局次長：質問②に対する回答

一つは実習等で不合格になってしまった。また、科目の履修として単位が取得できなかった学生が出た。この二点が大きなポイントになる。ただ、卒業学年まで来ている学生なので、このあたりをどうしていくのかというのは学校としての課題として考えなければいけないところではないのかと思っている。

段上委員：質問③

5 カ年計画として学科が強くなるために横展開をしていくと話していたが、具体的にどうされていくのか教えていただきたい。

中道事務局次長：質問③に対する回答

今までは各学科長が各学科を取りまとめてきた。それを各学科単位だけでなく、一つ上の立場から見ることができる人材を育成することで横展開しやすい組織を作っていく。そうすることで、ある学科の成功事例を他の学科に取り入れやすくなると考えている。

●閉会の辞

以上